

## 令和5年度第2回花巻市史編さん委員会 会議録

### 1 開催日時

令和5年8月31日（木） 午前10時00分～午前11時30分

### 2 開催場所

花巻市博物館 講座・体験学習室

### 3 出席者

#### (1) 委員9名

佐藤由紀男委員、七海雅人委員、兼平賢治委員、中嶋奈津子委員、  
大原皓二委員、阿部茂巳委員、菊池邦雄委員、高橋信雄委員、中村良幸委員

#### (2) 花巻市教育委員会 佐藤勝教育長

事務局（博物館市史編さん室）5名

佐藤恒室長、小原伸博上席主査、因幡敬宏主査、畠山滉平学芸調査員、  
柳原純也行政事務員

### 4 議 事

#### (1) 花巻市史編さん基本方針（案）について

#### (2) 令和5年度スケジュールについて

### 5 議 事 録

#### (1) 開会（進行：佐藤恒室長）

[委員会成立報告（委員9名出席・1名欠席）]

#### (2) 挨拶

（佐藤勝教育長）

今日も大変お忙しい中、そして暑い中ご出席いただきありがとうございます。  
前回は基本方針案の中で児童向け市史の発行、刊行目標、編さん体制、スケジュールについてご協議をいただきました。

この市史編さんは、一大事業であります。市民の興味関心が非常に高く、これらの内容について様々な会議等でご質問や要望をいただいております。

先日も校長会議、市のPTA連合会の協議で、児童向け市史については、多くの方から是非、市史の本編の先に刊行してほしいという強い要望をいただきました。また、メール

等でご意見もいただくわけですが、市民が郷土史について関心を得るための手立てとして、子ども向けの市史や市の移り変わりがわかる資料集を提供して欲しいというご意見もいただいております。

本日は前回のご指導を受け、基本方針、スケジュールをご協議いただき、また子ども向け市史について先行することを再度、ご検討いただければと思います。そして、先行する場合、どのような方法がいいのか、配慮すべきことはどのような点なのかについてもご指導いただければありがたいと思います。

よろしく願いいたします。

### (3) 議事

(佐藤恒室長)

それでは、協議に入ります。

議長は、市史編さん委員会設置要綱第4条第2項の規定によりまして、当委員会委員長であります高橋信雄様にお願いいたします。

(高橋信雄委員長)

前回の委員会で(1)花巻市史編さん基本方針(案)の1と2と6については協議済ということで今回は、3.全体構成、4.児童向け市史の発行、5.刊行目標の3点について協議となります。

まず、協議(1)の3.全体構成について事務局より説明をお願いします。

[因幡敬宏主査：3.全体構成について説明(会議録への記載省略)]

(高橋信雄委員長)

前回もご協議いただいておりますが、通史編と資料編の他、特別編についてはさらに検討するということですがご意見いただけますでしょうか。

(兼平賢治委員)

細かいことですが、資料編の説明で、通史編に記されている文言の詳細を文章や写真、図などで記載するということが古代、中世、近世あるいは近現代もそうですけども、根拠となる資料という言葉が入らないとおかしい感じがします。資料編には、通史編を執筆する上で根拠となる資料を掲載するというを書いた方が良かったと思います。

(高橋信雄委員長)

全くその通りだと思います。その他ございませんか。

(阿部茂巳委員)

特別編に産業は入らないのですか。江戸時代だと大迫の煙草や安俵高木通の米どころも注目しなければなりません。花巻全体の産業というのも非常に特色あるもので、それを扱わなければ花巻市全体の姿っていうのは見えてこないため、特別編は焦点を絞らないと、ぼやけてしまうような気がします。

(佐藤恒室長)

特別編は巻数未定ということになっていますが、分野ごとに1巻という考え方、つまり自然で1巻、民俗で1巻という考え方を持っております。

自然、民俗、産業などを全部含めて特別編1冊を作るのではなく、特別編(自然)、特別編(民俗)という形で1巻ずつ出していきたいということでございます。

(兼平賢治委員)

現在、北上市史では自然編、民俗編というのが特別編として出されています。

例えば、自然編は岩石や地質あるいは昆虫がどのように分布しているか扱っており、民俗編の方は芸能など、映像として記録したり、あるいは芸能の方々から話を聞いた内容を扱っています。産業ですけれども、北上としては大事な分野ですので、通史編でも資料編でもそれらを扱っています。しかし、自然というのは、岩石の分布状況や地質、昆虫など、各時代の通史編では扱い得ないので、特別編として出しています。

花巻の場合は、伝統芸能が多いところですから、これは目玉になるのではと思います。例えば、他の自治体で特別編は、東日本大震災を受けての災害ということで取り上げている自治体もあります。

こうした地域の特徴となるものを詳しく1巻毎に扱うのが特別編であると私自身はイメージしています。

(高橋信雄委員長)

今、お話があったように、自然と民俗はある程度イメージがありますが、事務局の方で自然と民俗以外に考えている分野はありますか。

(因幡敬宏主査)

自然、民俗の他に、花巻の先人を紹介する人物編も検討しております。

(高橋信雄委員長)

委員の方々からこういうのも、というご意見があれば出していただきたいと思います。

(中嶋奈津子委員)

特別編について自然あるいは民俗の話が出ていますが、資料編の方に詳しく載せれる状況で、特別編にどのくらい載せるものがあるのか、少し疑問に思っております。

北上市史の場合だと特別編はありますけれども、本編に載せきれなかったものを載せるという形なので、ある意味資料編みたいなところもあります。あとは、DVDに映像をつけるという話も出ていますが、資料編がありつつ特別編もそれぞれ1冊ということになると載せる内容がそんなにあるのか疑問です。巻数はこれから決めるということですので、それも加味し、検討いただければと思います。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございます。特別編を出すということは、賛成するわけですがけれども、中身についてはもう一度、事務局で検討してもらおうということでもよろしいでしょうか。

(佐藤由紀男委員)

巻数について事務局から説明がありませんでしたが、もう決まっているのでしょうか。

(因幡敬宏主査)

事務局としては現在、資料の通りに想定しており、今後編さんが進む中で変わってくることもあると考えております。

(佐藤由紀男委員)

この構成に反対というわけではありませんが、1巻ごとの厚さ、ほぼ同じぐらいに統一するのが通例かと思います。

先史の部分ですけれども、花巻市史の場合、先史は旧石器から弥生ということですが、例えば近世の1巻と同じぐらいの厚さが確保できるかなということを確認したいです。

あと、資料編を先史1巻、古代・中世1巻という形で時代順にしていますが、比較的資料編の方は、考古編ということで考古資料だけを刊行している市史、県史が多いと認識しております。例えば、近世の考古資料は、近世の資料編に掲載、中世の考古資料は、中世に掲載ということかと思いますが、どちらが良い悪いじゃないですが、これのメリットはどのように考えているのか教えていただきたいです。

(因幡敬宏主査)

この辺りにつきましては他の自治体の構成を参考にしておりますが、事務局の方でも、検討不足であると感じております。

(佐藤由紀男委員)

中村委員、旧石器時代と縄文時代で他の巻と同じぐらい書ける量というのは、花巻にはありますか。

(中村良幸委員)

縄文時代は多くあります。旧石器時代で大きな遺跡が一つ調査されています。弥生時代に関しては、東和町辺りで出始めてます。

ただし、佐藤委員が言われている通り、巻数の幅が合うか、ページ数が合うかというのは、少し難しいです。

(佐藤由紀男委員)

わかりました。ありがとうございます。

(阿部茂巳委員)

近世は膨大になると思います。例えば、花巻城代日誌とかは入れようとしていますか。とつても1巻では収まらないくらいの量があります。花巻の近世資料の扱いは、大変難しいと思います。

(因幡敬宏主査)

花巻城代日誌は、膨大な量があるのは事務局でも把握しておりまして、分量をしっかり検討して、掲載していくということになると思います。

(兼平賢治委員)

遠野市史では、資料叢書というのを出しています。通史編、資料編とは別に、南部家の古文書から見つかった日記を、別冊で資料叢書に載せています。

(阿部茂巳委員)

南部叢書みたいなものですか。

(兼平賢治委員)

はい。北上市史でも遠野市史でも近世1巻ではなかなか収まりきれいていません。市史を作るのにも相当なお金がかかりますので、もう1冊追加というところは。北上市史の場合は近世資料編が10巻ぐらい出ています。花巻でこれから調査を進めたとき、もう1冊必要だなという場合も出てくると思いますが、あとは予算との兼ね合いになってくると思います。

(高橋信雄委員長)

調査が進むに従って、巻数をさらに増やすとか減らすとかってというのは出てくると思います。現段階での方針としては、通史編、資料編、特別編を出して、その中での区別として、先史、古代、中世、近世、近現代の順を考えているということで、市史の全体構成についてはこれでよろしいでしょうか。

それでは、4. 児童向け市史の発行について、事務局から説明をお願いします。

[因幡敬宏主査：4. 児童向け市史の刊行について説明（会議録への記載省略）]

(高橋信雄委員長)

児童向け市史の発行時期について本編に先行して発行したいという提案ですが、ご意見を伺いたいと思います。

(佐藤由紀男委員)

まず、児童向け市史の内容については、前回の委員会でも検討されたのか、それとも今回初めて提案されているのか、それによって私の発言も変わってきますので、教えてください。

(因幡敬宏主査)

児童向け市史の内容については、前回の委員会でもご提案させていただきました。

その上で、児童向け市史は、本編の編さんの後に発行した方がいいのではというご意見をいただいたところです。

(佐藤由紀男委員)

わかりました。前回の委員会を不参加の為、内容を承知してなかったので、発行は一番最後で良いのではという意見をメールで差し上げたところです。

子ども向け市史というのは三つの方策があります。

まず、社会教育、生涯教育の視点から小中学生を対象にし、学校教育という視点が無い市史です。ですから買う人は買って勉強してくださいという普通の市史と同じ扱いです。

そして、二番目に副読本として刊行している市史。

最後に、教材用としての市史です。要は学校の先生向けに小学校版と中学校版を作っている自治体もあります。

そのなかで、副読本として刊行し、小学生向けに無料で配り、かつ大人には販売をするというこの提案に賛成ですし、できるだけ早く刊行するのが望ましい。前回の私のメールでの発言は翻して賛成をいたします。

ただし、必ず10年を機に大規模な改定が必要と考えます。これは事務文書として教育委員会のどこかに、市史編さん室が無くなった時には移して継続するように書いておかなければいけない。もし、この副読本としての市史を早く刊行することになれば、執筆はどうするのか、どのような点に注意すればいいのかということになりますが、その辺は教育学部の教員として、考えている部分がありますので、それはそのときに少しお話をさせていただこうと思います。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございました。

前回の委員会もそうでしたけれども、児童向け市史の必要性については、委員の皆さんも賛同されました。では、具体的にどうしようかというところで、その発行時期を早めるという話ですが、ご意見をいただければと思います。

(兼平賢治委員)

前回の委員会では、ダイジェスト版なのに市史の前に出るのはおかしい、市史が出された後、その成果を踏まえて作るべきという話だったと思います。

ただ、岩沼市で子ども岩沼市史が出されている話では、皆さんいいねっていう話でしたし今、佐藤先生からお話があった通りで、皆さん早くそのような教材になるようなものを届けたいっていう思いは同じだと思います。市史が編さんされた後、編さん後版という形で改訂版を出そうということですから、改訂版を出すということであれば、早くにこのようなものは出した方が良いのではと考えます。

ただ、委員の方々も色々な思いがあると思いますけども、そのときにどのような形で出すのか、きちんと議論していくことが重要だと思います。

(高橋信雄委員長)

佐藤委員が言われた形で刊行していくのであれば、先行してやるというそれに、意義があると思いますので、今の段階ではこのような方向で行くけれども、中身については事務局でしっかり検討してもらおうということによろしいでしょうか。

(佐藤由紀男委員)

次回の委員会が確か11月下旬になっていて、それまでに児童向け市史の執筆者選定に関して各方面から聞き取りをするという予定になっております。構わなければ、この辺の執筆のことですとか、その他、私の意見を述べさせていただいてもよろしいでしょうか。

(高橋信雄委員長)

はい。

(佐藤由紀男委員)

先行することより大事なことは、副読本として刊行するという事です。基本方針案に小学校教育課程の中で活用してもらうことを目指すという表現がありますが、これは目指すのでは無く、活用してもらうと明記した方が良いと思います。

あと、副読本なので、学習指導要領との整合性も検討していく必要があります。以前勤めていた浜松市でどのように進めていたのか参考にお伝えしますと、執筆について、小学校編は小学校の社会科教諭の5名、中学校編は中学校の社会科教諭5名、そのまとめ役が



1人で計11人の編集委員となっています。

そのときに、私どものような文化財担当者が大きく協力をします。博物館の学芸員、教育委員会の文化財担当ですとか、博物館などに来て情報を収集していました。ある意味こうした副読本を執筆するというのは、普通の市史を執筆するよりもなかなか厄介なことですよね。教科書も学習指導要領も理解していなければならない。例えば、小学校5年生、6年生を対象にするならば、当然、彼らがどれだけの基礎知識を持っているかを理解していかなければいけない。そうすると、執筆に望ましいのは、小学校の先生ということになりますが、岩手県の場合では広域に異動されるので難しい。もし、教員以外が執筆になると、相当検討していく必要があります。

情報を収集していただいて、次回ご提案をお願いしたいと思います。

(佐藤勝教育長)

参考までによろしいですか。

(高橋信雄委員長)

はい、どうぞ。

(佐藤勝教育長)

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

花巻市では旧花巻になりますけれども、市の教育研究所という組織の中で、社会教育担当者と連携して、平成2年に『小学生のための宮沢賢治』を発行しましたが、小学校の教諭が中心に書いています。それから、小学校3、4年生の副読本として『わたしたちの花巻』、中学生向けに『揆奮』という花巻市の人物誌を作った経験があります。

こうした方法が良いのかなと思っておりますが、書ける人間が少ないことが大きな障害です。教諭の多忙化の問題もあるにしろ、執筆者を育てることも大事だと思っています。これも1つの課題だと思います。

学校の副読本ですので、校長会とも相談し、指導要領と関係教科書との整合を行い、次回ご提案できればと思います。

(阿部茂巳委員)

私も児童向けに何らかの形のを発行するという事は、大いに賛成しますが、副読

本と市史編さんの準備編ということには反対します。趣旨が全然違うと思います。副読本であれば、教育委員会の学校関係の部署などで議論されるべきだと思います。

合併前の市町が発行した4冊をまとめるという形での副読本となると、あと3年～5年程度で出来ると思いますが、新しい研究の成果を反映できる形にはなかなかならないでしょう。

そういう点では今までの発行した市史・町史をうまく小学生向きにまとめる作業は市史編さんの前にもできる話ですよ。そういうものとして発行し新しい市史の編さん後に、改めて改訂版を作り副読本とする順序ならば私は賛成します。

(佐藤由紀男委員)

資料2の児童向け市史の発行時期に書いている、児童向けの市史を本編の編さん準備版として、本編の編さん前に発行したい、というこの部分に関してこれはおかしいのではないかと。

(阿部茂巳委員)

はい。

(佐藤由紀男委員)

先ほど、事務局から提案があったような副読本として刊行するということになるのであれば本編の編さん準備版ではないでしょうね。あくまでこれは副読本として、まず刊行するという事ですので、それは阿部委員のおっしゃる通りだと思います。本編の編さん準備版ではなくて、あくまでこれは児童向けの市史、そして、その使い方として副読本として使ってもらおう。準備版として位置付けるのは、確かにおっしゃる通りだと思います。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございます。本編の編さん準備版ではなく、副読本として進めるという点についていかがでしょうか。

(阿部茂巳委員)

執筆者の肩の荷が下りると思います。

(高橋信雄委員長)

それでは、5. 刊行目標について事務局より説明をお願いします。

[因幡敬宏主査：5. 刊行目標について説明（会議録への記載省略）]

(高橋信雄委員長)

5の刊行目標についてご意見を頂きたいと思います。

あくまで目標ですが、こういう方向でいきたいということですが、いかがでしょうか。

(阿部茂巳委員)

専門部会について、専門委員の検討はどの程度進んでいますか。

(因幡敬宏主査)

部会員や部会の設置数などは、今事務局の方で検討している段階です。

(兼平賢治委員)

3ページ目の赤い線のところで、点線と実線の違いを教えてください。

(因幡敬宏主査)

赤い矢印のところでは上が資料編の矢印、下が通史編の矢印となっております。資料編の赤い点線というのは、通史編の執筆が終わるのを待つ期間でありまして、なるべく通史編と資料編の発行する時期を同じくしたいと考えております。

といいますのは、通史編を書いている途中に資料編の内容の誤りに気づいたとかになると、後戻りしての修正が難しくなる可能性があるということで、そういったものをなくすために点線で示しております。

(兼平賢治委員)

ちなみに近世について、どこまでその資料の調査をしようと考えているのかによって、年数が結構変わってくると思います。

特に旧花巻市史の資料編はしっかりとしたものがありません。いくつか花巻市に関わる資料を資料編みたいな形にただけで、花巻の近世の様子を伝える資料を発掘して載せるという作業はまだ行われていません。

そうしたとき、近世の場合はかなり資料が出てくると思います。近世の場合は、どこまで資料調査をするかっていうところと、新たに出てきた資料、膨大な資料を読み解いていくときに、くずし字を翻刻する作業もあります。

そうすると令和9年の段階で、粗原稿の目途が立っている様でないと、近世は厳しいのかなというところですね。資料調査をどこまで考えるか見据えておく必要があります。

(因幡敬宏主査)

貴重なご意見ありがとうございます。

(高橋信雄委員長)

想像もつかない資料がいくつも出てくる可能性があるんで、あくまで目標はこう立てるけれども、実際にはもっと必要なものが出てくる可能性もあるということを経理局の方で今後、検討していただきたいと申します。

その他、よろしいでしょうか。

[意見なし]

それでは、(2) 令和5年度スケジュールについて、事務局より説明願います。

[因幡敬宏主査：(2) 令和5年度スケジュールについて(会議録への記載省略)]

(高橋信雄委員長)

ただいまの説明について、ご意見を頂きたいと申します。

(七海雅人委員)

全体構成ですが、資料編のところ、佐藤委員から考古資料の巻を作った方が良くないかとお話が出たと思いますが、ここは先史1巻で決まりなのでしょうか。

(因幡敬宏主査)

今日いただいたご意見を参考に、改めて検討したいと申します。

(七海雅人委員)

わかりました。私は先史1巻ではなく、考古資料1巻として巻数を作ったほうが良いと

思っております。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代だけでなく、中世、近世、近代に関しても考古資料があると思います。北上市史で古代中世の資料編を作った際、城館をどこに入れるかでかなり揉めたところがありまして、ページ数が足りない状況に陥り、DVDでの付録みたいな扱いになってしまい、かなり紛糾したことがありました。

考古資料についても、他の歴史資料と一緒に形で扱って、先史1巻というよりは私は考古資料編というように独立した形で作るべきではないかと思っております。

(高橋信雄委員長)

ありがとうございます。いただいたご意見を事務局で検討いただければと思います。それでは、以上をもちまして議事を終了します。

(佐藤恒室長)

ありがとうございました。

それでは次第の方に戻らせていただきたいと思います。

4番のその他になります。事務局からは特にありませんが、皆様の方から何かございますでしょうか。

[意見なし]

無ければ以上をもちまして、令和5年度第2回花巻市史編さん委員会を閉会とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

閉会

(以上)